



平戸市民病院

11月は3人の研修医が平戸市民病院で研修をさせていただきました。今回は初めて女子3人ということで、N桶先生はかなり気を遣われたとか遣われなかったとか…。平戸市民病院では日々の外来診療から乳児・成人の健診、訪問看護・診療・リハビリ、離島研修、さらには放射線画像や検体検査などの検査部実習と、多岐にわたる経験をさせていただきました。私たちが普段働いている都会の急性期病院にはない、患者さんと医師・医療スタッフの距離感の近さや、それゆえ必要とされる医療や診療技術など、多くのことを学ぶことができました。また、院長先生をはじめとして長年取り組まれてきた元気老人の育成についてのお話も伺いましたが、本当に元気なお年寄りの方が多く、病気の治療だけではなく、予防医学の大切さも実感しました。1ヶ月という短い間でしたが、とても充実した研修でした。本当に有難うございました。

井田 真生子 (北里大学病院)
大清水 みお (横浜労災病院)
武藤 須美玲 (横浜市民病院)



青洲会病院

11月の1か月間、青洲会病院で研修させていただきました。医師のみでなくコメディカルの仕事のみさせて頂く機会を多く頂きました。今回の地域研修において強く感じたのは、患者さんの病態だけではなく、生活自体をみる医療体制であるということです。患者さんの職業や生活環境、家族なども把握して行っている医療・福祉を見学させていただいたことは今まで急性期病院で医療を行っていた私たちからすると認識が甘かった部分であり、今までの自分たちの医療の在り方も見直すきっかけになりました。一ヶ月の研修を通じて、医学の知識や手技という点では普通の病院の方が多く学べていたかもしれません。しかし、地域医療でしか学べない事、例えば、地域の患者さんは地元でできるだけ治療を完結させて欲しいと思っている事、医療保険や介護保険についての医療者側の苦悩や疑問、離島も含めて総人口としては減少してきてはいますが、高齢者の割合は増加しており医療関係者のマンパワーは地域ではますます増加傾向にあること、地域の第一線の病院としてスタッフの方々は自分の仕事のみではなく幅広く一人一人の患者さんのために多種多様に働いていることなど多くの事を学ぶ事ができました。短い期間ではありましたが貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

佐治 詩保子 (横浜労災病院)
寺尾 政昭 (埼玉医科大学病院)



柿添病院

柿添病院は平戸市の中心部に位置し、毎日多くの患者さんが訪れます。都市部とはまた異なる地域密着型の病院でありながら、かつ多くの症例数があるという非常に恵まれた環境の中で、1ヶ月間の研修をさせていただきました。10数名の入院患者さんを担当しながら、手術の第1助手をはじめ上部消化管内視鏡や腹部エコーなど、数多くの手技も経験させていただきました。院外研修についても、附属中野診療所での通所リハ・訪問診療や、度島・的山大島への訪問リハ、平戸島内の保育所健診など、大変充実していました。また、佐世保市内までの片道約1時間の救急搬送に同行したことも印象的でした。日中の業務終了後は病院周辺の美味しいお店に何度も連れて行って下さり、お

かげさまで平戸を24時間満喫することができました。平戸の皆様方には本当にお世話になりました。心より感謝申し上げます。

松永 啓秀 (九州中央病院)

村松 寛惟 (静岡済生会総合病院)



生月病院

平成27年11月に平戸市立生月病院で研修させていただきました。生月に来たのは今回が初めてで、見知らぬ土地でやっつけられるかとても不安ではありましたが、地域の人々、生月病院のスタッフに優しく接していただき、一か月という短い期間ではありましたが、とても楽しく研修生活を送ることができました。外来にてプライマリの体験・実践、そして健診やインフルエンザの予防接種、往診など、地域医療に触れ、たくさんの方の事を学ばせていただきました。また、プライベートでは先生方に生月のみならず平戸の美味しいお食事処などにたくさん連れて行っていただきました。人々の温かさに触れながら、地域の人々の健康を守るためには個人として、病院としてどういったことが必要なのか深く考える機会となりました。

この研修で関わったすべての方にこの場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

藤江 諒子(長崎医療センター)



平成27年11月30日

発行：ながさき県北地域医療教育コンソーシアム

<http://agonet.jp/>